第３３回

月窓寺

吉祥寺薪能

能「清経」撮影：石田裕

能 **清経** きよつね ねとり 音取

宝生 欣哉

友枝 雄人

佐藤 寛泰

狂言 **萩大名** はぎだいみょう

飯田 豪

野村 萬斎

人間国宝 野村 万作

令和元年 十月三日（木）

午後四時三十分開場／五時十五分開演

ところ■吉祥寺 月窓寺境内

雨天■武蔵野市民文化会館にて蝋燭能 ろうそくのう

前売券のお求め〈全席指定〉

A席 4,000円／B席 3,000円

お電話での予約はできません

8月1日（木）午前9時より

武蔵野市観光機構

商工会館１階

☎0422-23-5900

営業時間：９～１８時

8月1日（木）午前１０時より

ぴあステーションチケットポート

アトレ吉祥寺東館Ｂ１階

☎0422-22-2348

営業時間：１０～２１時

主催■吉祥寺薪能実行委員会

後援■武蔵野市／一般財団法人武蔵野市開発公社

第３３回
月窓寺

吉祥寺新能

令和元年十月三日（木）
午後四時三十分開場・午後五時十五分開演
於・吉祥寺 月窓寺境内 ※雨天時・武蔵野市民文化会館

大会長挨拶
市長挨拶

吉祥寺新能実行委員会大会長 安藤 亨
武蔵野市長 松下 玲子

―一番組―

解説 横浜能楽堂芸術監督 中村 雅之

火入の儀

狂言 **萩大名**

大名 野村 万作
太郎冠者 飯田 豪
亭主 野村 萬斎
後見 内藤 連

―休憩 十五分―

解説 横浜能楽堂芸術監督 中村 雅之

能 **清経**

清経ノ妻 佐藤 寛泰
平清経 友枝 雄人
淡津三郎 宝生 欣哉
音取 大鼓 亀井 広忠
小鼓 鵜澤洋太郎
笛 一噌 隆之
後見 中村 邦生
佐々木多門
地謡 佐藤 陽
大島 輝久
内田 成信
友枝 真也
金子敬一郎
粟谷 能夫
香川 靖嗣
大村 定

（終了予定 午後七時二十分頃）

演目の御案内

狂言 **萩大名**（はぎだいみょう）

土地の訴訟の為に長らく在京している、無教養で無風流な田舎大名（シテ）。退屈のあまり宮城野に今を盛りの萩を見物に行くが、庭の亭主が風流者で、大名に歌を詠むことを所望する。歌の詠めない大名に太郎冠者は歌を教え助けるが、覚えの悪い大名にあきれて途中で姿を隠してしまう。さて一人になった大名は・・・。

大名ものといわれる狂言で、大名も畿内に住む大名と、地方からきている大名の二つに分けられる。

能 **清経** 音取（きよつね・ねとり）

都で静かに夫の帰りを待ち続ける平清経の妻（ツレ）のもとに、家臣の淡津三郎（ワキ）が駆けつける。源平合戦により平家一門は都落ちを余儀なくされ、その行く末を悲観した平清経は入水の末、果ててしまったのだった。妻は清経の最期の様を知り、手渡された遺髪を前に悲嘆に暮れ、悲しみの余りその形見を返納してしまう。

その夜、妻の枕元に清経の霊（シテ）が現れる。妻は、再会の約束も果たすことなく自ら命を絶った清経を責め、清経も妻の振る舞いに恨み言を述べ、互いに涙する。さらに清経は、源氏に追われ滅びゆく運命を悟り、月の輝く夜、船上にて笛を吹き、海にその身を投げた最期を語る。そして修羅道の苦しみを伝えるが、しかし死の間際に唱えた念仏の功徳によって今は成仏できたと言い残し、消えて行くのであった。

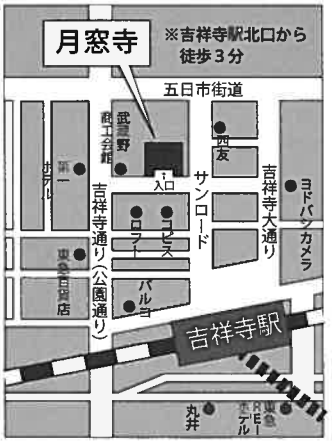
なお、今回の小書（こがき・能の特殊演出のこと）「音取」では、哀切漂う笛の独奏とともに清経の霊が現れる演出が見どころとなる。

- ●雨天の際は、武蔵野市民文化会館にて行います。
- ●演者は都合により、断りなく変更することがあります。
- ●開演中の写真撮影及び録音は一切禁止いたします。
- ●会場には、駐車場がありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。
- ●寺院境内につき、誘導員の指示によってご入場、ご退場ください。その他、係員の指示に従って頂きます。

会場案内図

雨天会場

吉祥寺駅北口から
●バス
１番線 向台町五丁目、桜堤団地、関前西公園行
２番線 電通裏、武蔵野営業所、柳沢駅行
※市民文化会館前 下車

三鷹駅北口から
●徒歩 １３分
●バス
１番線 北裏、武蔵野営業所、武蔵関駅、田無橋場行
２番線 柳沢駅、東伏見駅北口行
４番線 武蔵境駅、緑町二丁目、武蔵小金井駅行
５番線 電通裏行
６番線 天神山行
※市民文化会館入口下車徒歩２分

本会場